

# 「何もしない合宿」を通じた 日常の関係づくりと地域循環の創造



## 裾野市東地区おやじの会

私たち裾野市東地区おやじの会の活動は、「体験をさせれば子どもは育つ」という発想への違和感から始まりました。本当に大切なのは、何を体験したかよりも、どれだけ多様な人と出会い、知り合い、関係を築けたかではないか。そう考えたとき、必要なのは特別なプログラムではなく、地域の中で大人と子どもが自然に出会い続ける場だという結論に至りました。

2012年9月に始めた月1回のお泊り会「何もしない合宿」は、あえて何も用意しない場です。夕食と入浴を済ませて集まり、消灯の時間まで自由に過ごし、翌朝解散する。ただそれだけの営みを、これまで100回以上積み重ねてきました。主催者の負担を極限まで減らすことで継続を可能にし、無理のない形で続けてきたことが最大の工夫です。

続ける中で見えてきたのは、関係の力です。月1回の出会いはやがて日常の関係へととなり、同じ地域で暮らす者同士が顔と名前を知り、信頼関係を築いていきます。その関係を積み重ねることで、やがて大人になった者たちが地域活動や消防団などに主体的に関わる姿も生まれています。これは教育基本法第1条が掲げる「社会の形成者の育成」が、地域の実践として形になっている姿だと考えています。

特別なことはしていません。ただ、多様な人と出会い続ける場を守り続けているだけです。しかしその積み重ねこそが、地域が教育力を発揮する土壌づくりであり、地域づくりの土台となるのだと実感しています。



2012年から積み重ねた「何もしない合宿」は100回を超えました



泊まり慣れた子たちが多く、準備も片付けも全く負担が掛かりません



参加者それぞれがそれぞれの過ごしたいように過ごして良い空間です



世代や性別を超えて雑談し、知り合う機会が生み出されています